

栃木県

モデル圏域 県南圏域



とちまるくん



ナイチュウ

(とちぎナイスハート推進マスコット
キャラクター)

地道な活動の継続 ～小さな事からコツコツと～

栃木県では、平成25年度から「地域に迎え入れる力」、平成26年度から「病院の送り出す力」を高めるための研修に着手し、実行計画を立案するグループワーク、ブラッシュアップを継続実施している。平成27年度からは、より積極的な取組を推進するため、県自立支援協議会相談支援部会に国研修受講者を中心にした官民協働のワーキンググループを設置し、研修の企画運営などについて検討を行っている。

また、地域移行の対象となりうる者を把握するため、平成26年度に精神科病院入院患者の調査を行い、地域移行のハンドブックを作成し取組の均てん化を図っているところである。

モデル圏域から自治体全体への展開に向けた方針

自治体全体への展開に向けた方向性

県・圏域・市町ごとの協議の場について、既存の会議の活用も含めた位置づけの明確化、効果的な協議に向けた工夫（データの活用等）を行う。

○圏域ごとに地域の実情が異なるため、新たな圏域をモデル圏域とすることで広く取組推進を図る。

モデル圏域と共通の課題を抱えている圏域もあるため、良い取組は波及できるように、担当者や圏域の中核人材で他圏域の取組を共有できる機会をつくっていく。

○精神障害者の退院後支援の試行運用を更に進め、地域におけるネットワーク構築の一助とする。

<自治体全体への展開に向けた具体的な取組方針>

1年目（今年度）

○県の協議の場設置準備

圏域・市町の協議の場の設置促進

○情報提供

○人材育成研修や会議におけるモデル圏域の取組の共有

○相談支援体制強化

2年目（令和2年度）

県・圏域・市町の協議の場設置

3年目（令和3年度）

検討中

1 圏域の基礎情報

基本情報

市町村数（H31年4月時点）		6		市町村		
人口（H31年4月時点）		478,328		人		
精神科病院の数（H31年4月時点）		5		病院		
精神科病床数（H31年3月時点）		660		床		
入院精神障害者数 （H29年6月時点）	合計	563		人		
	3か月未満（％：構成割合）	121		人		
		21.5		％		
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	92		人		
		16.3		％		
	1年以上（％：構成割合）	350		人		
		62.2		％		
退院率（H29年3月時点）	うち65歳未満	185		人		
	うち65歳以上	165		人		
	入院後3か月時点	76.0		％		
	入院後6か月時点	92.0		％		
相談支援事業所数 （R元年5月時点）	入院後1年時点	95.0		％		
	基幹相談支援センター数	3		か所		
	一般相談支援事業所数	12		か所		
保健所数（H31年4月時点） （自立支援）協議会の開催頻度（H30年度）	特定相談支援事業所数	58		か所		
	（自立支援）協議会の開催頻度	1		か所		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（H31年1月時点）	（自立支援）協議会の開催頻度	0		回／年		
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無				
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（H31年1月時点）	障害保健福祉圏域	有	1	/	1	か所／障害圏域数
	市町村	有	2	/	6	か所／市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

<平成30年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (H30年度当初)	実績値 (H30年度末)	具体的な成果・効果
①管内精神科病院における、地域の関係機関と協力した地域移行に関する取組の実施			<ul style="list-style-type: none"> 管内の3病院で、院内研修や委託の相談支援専門員による出張相談、ピアサポーターを活用した退院準備プログラム等、何らかの取組実績がある。
②地域相談を行う相談支援専門員の増加			<ul style="list-style-type: none"> 病院と地域支援者との連携強化を図るため、管内の3病院と協力した地域移行支援を実施したことで、初めて地域移行支援の流れを経験した相談支援専門員がいる。
③ピアサポーター活用の実績			<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から定例化して交流会を実施。平成30年度から、管内市町職員及び委託の相談支援専門員等も参加。 平成29年度の交流会において、入院している仲間に向けた冊子を作成。 市町の関係者研修会やイベント等にて普及啓発の実施。

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- ・精神障害にも対応した包括ケアシステム構築のための取組は、病院を中心とした3つのエリア毎に各関係機関との連携をとりながら行われている。
- ・県南圏域として関係機関との連携を深め、地域相談支援を円滑に推進する協議の場としての連絡会や研修会等を実施している。
- ・各関係機関において、ピアサポーターの活用についての理解があり、管内2病院のデイケアからもピアサポーターの推薦がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
エリア毎に特徴や課題がある。しかし、各エリアにおける活動状況及び課題を共有する場や、圏域としての課題の検討や評価等を行う場がないため、継続性や発展性がない。	<圏域の支援体制の評価と再構築> 各関係機関で実施している取組を把握・整理するとともに、各エリア及び圏域全体としての取組む方向性を計画、実施、評価していく場を設置する。	行政	各市町における取組を振り返り課題抽出し、市町ごとの協議の場で有効活用していく
		医療	各機関での課題を抽出し、それぞれの立場でできることを検討する
		福祉	
		その他関係機関・住民等	
ピアサポートの活用について、現状は普及啓発活動の場が中心で、地域移行支援等、ケース支援の活動まで広がらない。	<地域移行支援者としての活動の企画> ピアサポーター及び各関係機関の職員と一緒にピアサポートの意義や効果等を再確認し、具体的な活動計画を企画する。	行政	地域包括ケアシステムを構築するなかで、ピアサポーターの活用を意識的に位置づける
		医療	退院意欲喚起の重要性を再認識し、地域の支援機関の活用を検討する
今までの地域移行支援の取組みから、医療機関における退院意欲喚起の働きかけの重要性を再認識。	<医療機関における退院意欲喚起のための取組み> 医療機関において、地域の支援機関等を活用した退院意欲喚起のための取組を企画する。	福祉	ピアサポーターの活用を積極的に検討するとともに、医療機関における退院意欲喚起の取組を推進する
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①各市町における、地域包括ケアシステム構築及び推進のための検討実績	2市町	6市町	各市町における地域包括ケアシステム構築推進のための協議が推進する
②地域移行支援に関するピアサポーター活動の実績	0	1以上	退院支援に関わり、相互の意欲喚起につながる
③医療機関における、長期入院患者への退院意欲喚起のための取組企画	-	2病院	長期の入院患者も「退院したい」との意識が高まる

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容		
		<評価と再構築>	<ピアサポーター>	<退院意欲の喚起>
R 1年7月	支援体制の評価	取組状況照会 (市町及び各関係機関)		
R 1年8月	第1回全体会	取組状況及び課題の共有 ワーキングの立ち上げ (ピア&退院意欲)		
R 1年9月	研修会の開催		ピアサポーター及び関係機 関等を対象とした研修	
R 1年11月	第1回ワーキング		全体会で共有した課題を もとにした取組の検討	全体会で共有した課題か ら取り組む方向性の検討
R 1年12月	第2回ワーキング		実施計画の作成 ※ピアサポーター交流会 と連動しながら実施	実施計画の作成
R 2年3月	第2回全体会	ワーキングの結果共有 来年度以降の取り組みにつ いて検討・共有		